

基幹博物館の各種展示事務局案について

1 ビジターセンター展示

(1) 展示の位置付け

『松本まるごと博物館ガイドブック』をベースに、現在（その時々）の松本を発信する展示とする。

また、下記常設展示の導入と位置付けるとともに、本館及び分館（まるごと博物館）の紹介もここに位置付ける。

(2) 展示構成

ア 空間構成

- ・ 1 部屋

（四方を壁面で囲われたイメージではなく、ゆるやかにまとまったイメージ）

- ・ 200 m²程度

イ 配置位置

エントランスに隣接、当室が常設展示室出入口となるよう配置

(3) 展示内容

基本計画で位置づけられている項目（地形・地質、気候、植物、動物、温泉、行事、まちなみ、文化財、松本フィールドマップ、松本まるごと博物館）を中心に紹介するほか、文化・歴史、一般観光情報（特産品の販売所・飲食店等）も提供する。

(4) 展示手法

博物館への導入部分として、人をいかに惹きつけるかの観点から、以下の展示手法を検討する。

ア 空間全体の基調としては、ジオラマやレプリカを併用しながらパネル展示をイメージ

イ デジタル技術や目を引く立体物の活用

デジタル技術については、情報検索端末や映像・プロジェクションマッピングなどで導入する。（ただし、活用にあたっては、情報や機器の更新性に留意する。）

ウ 最新の情報およびその更新性を重視

2 常設展示

(1) 展示の位置付け

松本学の対象とする〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉を大きな切り口としながら、松本市の特徴をトピック・テーマで伝え、地域を知り、深める端緒とする。

(2) 展示構成

テーマ展示（総合展示）とする。

ア 空間構成

- ・下記(3)の展示内容（テーマ）に対応した区画（ゾーン）数とする。
 - ※ 区画については、躯体壁で区切る「部屋」とすることを含め検討中
 - ※ 各区画の規模については、大小をつけることを含め検討中
- ・合計1, 350 m²程度

イ 配置位置

ビジターセンター展示室と連続する動線上に配置する。各区画の配置については、展示構成案（資料2-3の2ページ）を参考とする。

(3) 展示内容（テーマ）

松本市の〈人〉〈歴史・文化〉〈自然〉を構成する特徴的な9つの展示テーマを取り扱う。

すべての展示テーマにおいて、未来に向けた問いかけや「ひとづくり」「まちづくり」に関わる投げかけをする。

ア 山

- ・ビジターセンター展示で取扱う内容をふまえながら、「山と人とのかかわり」を中心に展示
- ・分館（山と自然博物館、四賀化石館等）との役割分担から、動植物など自然面の展示は少数に留める。
- ・展示具体案（例）：山の恵み（考古）、古代の牧や須恵器窯、近代登山
- ・「山と生きる」→未来に向けて・「ひと・まちづくり」

イ 水

- ・ビジターセンター展示で取扱う内容をふまえながら、「水と人とのかかわり」を中心に展示
- ・分館（山と自然博物館、四賀化石館等）との役割分担から、動植物など自然面の展示は少数に留める。
- ・井戸や水道（江戸の木樋、伊勢町の通水古写真、近代の城山の配水場）
- ・「水と生きる」→未来に向けて・「ひと・まちづくり」

※ 山と水の折衷部分の描き出したいトピック

西山での梓川を用いた木材の切り出し、川除普請、牛伏川氾濫と治水

ウ 道

- ・街道（善光寺・千国・保福寺・野麦等の街道、「鱒の道」「塩の道」、犀川通船等）
- ・鉄道や路面電車
- ・人やもの、情報の「流通」を描く。
- ・展示具体案（例）：近世（街道）、近代（鉄道）をメインとし、サブの部分で古代木曾路（吉蘇路）・東山道（国府移転絡める）等を描く
- ・「街道の十字路」→「人・文化の流入・交流」→未来に向けて・「ひと・まちづくり」

エ 松本城

- ・松本城前史（小笠原城館跡群）～藩政期～廃藩置県・市川量造らの活躍
- ・主に中世～近代の政治史面の取扱い
- ・建築や土木の技術面については、松本城内の展示のあり方を含め検討
- ・城下町についてはここでメインに取り扱う。主題は「城下町の成り立ち」で城主による政治的「まちづくり」の視点。
- ・藩政期の最後のトピックに苛烈な廃仏毀釈を扱う。（廃仏毀釈の取扱いのメイン）
- ・現代にまで残された松本城→美術（石井）への刺激・文化財保存（市川・小林）→未来に向けて・「ひと・まちづくり」

オ 戦争と平和

- ・松本市の軍都としての発展を基軸に近代～現代を取扱う。
- ・いいかえれば近代以降の松本の都市の発展の歴史だが、「戦争」が本館の出発点であり、負の記憶継承は不可欠でもあるため、テーマ名に戦争を入れる。
- ・展示具体案（例）：軍都の前史（蚕糸業の発展・衰退）、軍都としての発展、戦後の市政の展開
- ・戦後の市政の展開→未来に向けて・「ひと・まちづくり」

カ ものづくり

- ・主に近世～現代までのものづくりの展開を取扱う
- ・ものづくりで扱う「もの」は「第二次産業」によるもので、産業化されていない手工業、作家の作品でない「もの」を扱う。
- ・生産面に焦点を当てる。
- ・展示具体案（例）：近世（押絵雛、手まり、足袋）、近代（民芸）、現代（クラフト）
- ・現代（クラフト）→未来に向けて「ひと・まちづくり」

キ 暮らし

- ・現代までの暮らしの要素（例：明かり、遊び…）の変遷と近世頃の地域差を取り扱う
- ・近世頃の地域差は、城下町の町屋・農村部・山村の居間を切り取り、違いを浮かび上がらせる。
- ・第一次産業についてはここで扱う。
- ・昭和30年代や高度経済成長期の姿については、現代までの暮らしの要素の変遷の中でふれる。（全国画一的な画期なので）
- ・→未来に向けて・「ひと・まちづくり」

ク 学び

- ・主に近世～現代の学びの歴史を取り扱う。
- ・基軸は「民間の中で育まれた学びの気質」
- ・廃仏毀釈がもたらしたものとして「学校」（寺院滅びて学校なる）を描く。
- ・寺子屋・崇教館～開智・旧制高校～話を聞く会～才能教育→未来に向けて・「ひと・まちづくり」

ケ 祈りと祭り

- ・考古～近現代までの信仰史を取り扱う。
- ・仏教・神道、民間信仰
- ・廃仏毀釈のメインは松本城だが、ここでは近代における信仰の変容の画期として触れる。
- ・一連の流れが意味をなすもの（行事等）なので、映像の活用が必要。
- ・展示具体案（例）：土偶～経筒・板碑・五輪塔～四柱～七夕・道祖神…
- ・近代以降の信仰の変容・現代での消滅（危機）→未来に向けて・「ひと・まちづくり」

(4) 展示手法

- ・常設展示の全体の基調としては、ジオラマ等を用いながらわかりやすさを重視する中で、実物を精選して展示する。
- ・ただし、戦争・ものづくりのテーマにおいては、実物をより多く展示する。

(5) その他

テーマから漏れてしまう部分については、企画展示や特別展示での補完、分館での対応とする。

3 企画展示・特別展示

(1) 展示の位置付け

基本計画の位置付けに同じ、ただし、用語の使用として「企画展示は比較的小規模、館独自のもの」「特別展示は比較的大型、全国巡回展を含むもの」とする。

(2) 展示構成

ア 空間構成

- ・3部屋
- ・大中小（配分は、600 m²、150 m²、50 m²）の合計800 m²程度

イ 配置位置

- ・諸室の全体配置の中で、チケット確認の容易さ等を勘案し配置を検討する。
- ・常設展示室と別フロアが望ましいか。

(3) 展示内容

ア コレクション展示は企画展示（季節展示）とし、コレクション毎の常設展示室は設けない。

イ 大型の全国巡回展を開催する際は、大中小すべての企画展示・特別展示室を利用する。（その間、コレクション展示は行わない。）

(4) 展示手法

- ・各壁面は資料を入れること・パネルを貼ること、両者に柔軟に対応できることとし、大・中の展示室には可動壁を設け壁面長の調整が可能となるようにする。

(5) その他

ア 企画展示・特別展示室は、会場準備～展覧会期間～撤収期間以外の、使用しない時期が生じる。その期間については、部屋空間の広さを活かした副次的な

位置付け（利用）を考えたい。

例：災害時の一時避難者や帰宅困難者の受入れ、被災文化財（隣接自治体含む）
仮保管等

イ 企画展示・特別展示は常設展示を補完するものでもあるので、小学校高学年
程度の理解を助けるよう配慮する。

4 市民ギャラリー展示

(1) 展示の位置付け

来館したことが無い市民の来訪のきっかけづくりとして必要ではあるが、建設
予定地の周辺の状況（M ウィングや市美の貸室）や IPM 管理の観点から、共用
スペースを活用し行うものとする。

なお、市民ギャラリー展示用のスペースでは、館蔵資料の展示は行わない。

(2) 展示構成

ア 空間構成

共用スペース（エントランス付近の廊下等）に展示可能スペースを設ける。

イ 配置位置

エントランス付近

(3) 展示内容について

基本計画の位置付け（博物館が介在した活動の成果発表）に沿いながらも、来
館したことが無い市民層の筆頭である生徒・学生層のきっかけづくりとして、学
校活動の受皿とする。

5 （仮称）親子の博物縁（ハクブツエン）

(1) 目的・位置付け

ア 子どもが「発見する」「気づく」喜びを伝えたい → キャリアの支援

イ 親子の博物縁 → 常設展示室 → 特別展示室

= 子供の成長に合わせたステップアップ = 成長とともにある博物館

ウ 親子で過ごせる居場所づくり

※ 託児ではなく、保護者と一緒に。

親が子どもに話しかける・伝えるきっかけ作りの場

= 子どものためでもあるが、子育て支援（親支援）の場でもある。

(2) 展示構成

ア 空間構成

・ 1 部屋

・ 150 m²程度

イ 配置位置

エントランス付近

(3) 展示内容

ア 対象

未就学児～小学校3年生（低学年）程度

イ 展示内容

- ・城下町迷路
- ・仁王尊またくぐり
- ・昔のくらし導入編（黒電話・柱時計・遊び（コマ、百人一首、メンコ…））
- ・県産材（できれば市内）を使った積み木
- ・貸衣裳（貫頭衣、陣羽織、甲冑、婚礼衣装、消防、警察…）

→キャリア支援の一環

(4) 展示手法

常設展示の諸要素を圧縮し、遊びの中から気づき・発見を得る。

6 博物館活動（博物館の日常）の展示

(1) 展示の位置付け

- ・「何をやっているのかわからない」から「何かやっている」へ

(2) 展示構成

従来展示機能として位置づけられていない、他の機能諸室を展示空間として再認識する。

(3) 展示内容

ア 収蔵展示

収蔵庫の一部の壁にのぞき窓を設け、収蔵状況が見えるようにするもの

イ 職員展示

- ・庶務・事業担当ともに事務室を1階に配置し、職員の様子が来館者から見えるようにするもの。

ただし、レファレンス対応については、図書情報室との兼ね合いがあるため、第3回討議「サービス」で検討。）

(4) 展示手法

特に何かをする（求める）のではなく、普段通りのこと（清掃・事務等）を「市民に見守ってもらっている」意識の中で行う。